

練馬中学校図書館だより

6月

平成 27 年 6 月 発行
学校図書館支援員 高橋 理沙

6月に入り、これから梅雨の季節を迎えます。

雨の日が多くなり、家の中で過ごす人が多いと思いますが、そんな時は読書をしませんか？小説に限らず、スポーツの本や科学の本など、いろんな本をひらいてみてください。17日からは中間考査が始まりますが、たくさん頭を使う勉強の息抜きにも読書がおすすめです。中間考査明けには、読書旬間の「読書スタンプラリー」が始まります。ぜひ友だちと一緒に参加してくださいね。



6月支援員来校予定表

月	火	水	木	金	土	日
1 ●	2	3 ●	4 ●	5	6 運動会	7
8 振替休日	9	10 ●	11 ●	12 ☆3年読書会	13	14
15 ☆1年読書会 ●	16	17 中間考査 ☆2年読書会	18 中間考査	19	20	21
22 読書旬間 ●	23	24	25 ●	26	27	28
29 ●	30	~7/17(金)まで実施!				

先月のクラス別貸出冊数

	1組	2組	3組	4組	5組
1年	7	15	9	1	1
2年	0	7	2	1	
3年	2	2	0	1	

昼休みの図書室でよく読まれていた本は、『「知」のビジュアル百科』シリーズ。戦争やオリンピック、音楽などさまざまなテーマがあり、写真が多く載っている本です。

また、今月の中間考査や読書会に向けて、課題図書を集めて読んでいる生徒の姿も見られます。



練中読書旬間

(平成 27 年 6 月 19 日 ~ 7 月 17 日)

読

書

スタンプラリー

始まります!



読書旬間とは…

- 読書の楽しさ知ってもらうこと
- 本に親しみを持ち、読書の習慣を身に付けること
- 読書の幅を広げてもらうこと

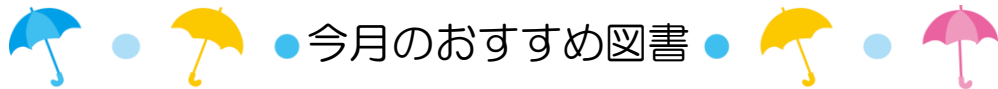
を目的として、昨年度から始まった図書のイベントです

▼スタンプラリーについて▼

- ◆ 参加は自由です。
- ◆ 参加者は図書室にあるスタンプカードをもらいに来てください。
- ◆ 読書旬間に図書室の本を借りて読みましょう。
(※「禁帯出」の印がある本、漫画、雑誌は貸出できません。)
- ◆ スタンプカードに、読んだ本のタイトルと一言感想を記入します。
- ◆ 記入したら、カウンターにいる図書委員にスタンプを押してもらいます。(スタンプは1冊につき1つです。)
- ◆ 5冊読んで、スタンプを5つ集めたら、しおりをプレゼントします。
- ◆ わからないことがあれば、図書室まで!



めざせ! 5冊達成!!
みなさんの参加をお待ちしています!



● 今月のおすすめ図書 ●

『郵便屋さんの話』(チャペック童話 絵本シリーズ)

カレル・チャペック/作 関澤 明子/訳 藤本 将/画 フェリシモ出版



郵便局での夜のこと。コルババさんが出会ったのは、“手紙に触れると、書かれていることが読めてしまう”という不思議な力を持った妖精の小人たちでした。ある日、宛名も差出人も書かれていない一通の手紙を、コルババさんはなんとか届けてあげようと小人たちに助けを求めます。なんとその手紙は、ある男性がひとりの女性に想いを伝えたものだとなり、手紙を届ける旅に出ますが…。(請求記号：98 ち)

『掟上今日子の備忘録』

西尾 維新/著 講談社



物心が付く頃から何かと事件に巻き込まれ、そのたびに犯人として疑われ続けてきた隠館厄介。彼が働く研究室で起きた、重要な研究データが入った SD カードの紛失事件。またもや犯人に仕立てられた隠館が呼び出した“掟上今日子”は、どんな事件でも 1 日で解決するというが、翌日にはすべての記憶がリセットされるという謎の名探偵でした。(請求記号：913 に)

『星空放送局』

中村 航/著 宮尾 和孝/絵 小学館



ある少女が牛乳配達青年へ宛てた、届くことのない手紙の話から始まる、「願い」や「届ける」がテーマの 3 つの連作短編物語。切ない気持ち、まるで夢を見ているかのような、心穏やかな気分させてくれる 1 冊です。(請求記号：913 な)



6 月特集展示

「自然・環境」

6 月 5 日「環境の日」・6 月「環境月間」

1972 年 6 月 5 日にストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、国連では「世界環境デー」、日本では「環境基本法」が「環境の日」を定めています。

また、環境庁(現・環境省)により、平成 3 年度から 6 月の 1 か月間を「環境月間」とし、全国で様々な行事が行われています。世界各国でも、環境保全の重要性を認識し、行動のきっかけとなるために様々な行事が行われています。(参考：「環境省」<http://www.env.go.jp/>) (2015.5.25)

今月はこの「環境月間」「環境の日」にちなんで、自然や環境問題に関する本を展示しています。

『地球の声がきこえる 生物多様性の危機をさけぶ動物たち』

藤原 幸一/著 講談社

環境破壊や人間との共存により、日本に限らず世界各地の野生動物の本来あるべき姿が変化しています。南アフリカに暮らすペンギンたちの故郷のひとつダーセン島の沖では、行き来する貨物船やタンカーが頻繁に起こす原油流出事故により、海が汚染され続け、海を泳ぐペンギンたちも犠牲になっています。私たちの生活が便利になる裏で、犠牲となっている命もあることは忘れてはいけません。



(請求記号：482 ぶ)